

カルシウムイオノファにより卵活性化処理を施行し妊娠分娩に至った受精障害症例の出生時調査

大垣彩 水野里志 宮地志織 松本寛史

古武由美 藤岡聡子 森梨沙 井田守 春木篤 福田愛作

【目的】近年、顕微授精（ICSI）を実施したにも関わらず受精卵が得られない受精障害症例の卵に対し人為的活性化法（AOA）を用いることで出産に成功した例が多数報告されている。さらには、AOA を目的としたカルシウムイオノフォア（ Ca^{2+} -i）を含む培養液が市販されるようになり、受精障害に対しての AOA は、生殖補助医療の中で一般的な治療になりつつある。当院でも、受精障害が強く疑われる症例に対しては Ca^{2+} -i を用いて受精卵の獲得を試みている。しかし、AOA について出生児予後を含めた安全性に対する報告はほとんどない。そこで我々は、当院で受精障害が疑われ、 Ca^{2+} -i 処理をおこない妊娠分娩に至った出生児の出生時調査をおこなった。

【対象と方法】当院で受精障害を疑い Ca^{2+} -i 処理を実施し、得られた受精卵を移植するにより妊娠、分娩に至った 8 児を対象とした。妊娠成立後に他院への紹介時に配布したアンケートより、出生時体重及び身長、性別、アプガースコア（Ap）、在胎日数、分娩様式、児の先天異常の有無について追跡をおこなった。

【結果】児の出生時体重は $2791 \pm 356\text{g}$ 、身長は $47.7 \pm 1.6\text{cm}$ で、全て男児であった。Ap は 9.7 ± 0.5 、在胎日数は 270.6 ± 8.5 日、分娩様式は経膈分娩 4 児、帝王切開 4 児であり、全ての児において先天異常は認めなかった。

【考察】カルシウムイオノファ処理を実施した症例において、出生時体重及び身長、アプガースコア、在胎日数、分娩様式、先天異常については、日本産科婦人科学会の周産期委員会による統計と同じ傾向にあり、カルシウムイオノファ処理が出生時での児の発育と先天異常に影響を及ぼす可能性は低い事が示唆された。しかし、症例数が少ないものの当院での出産例は全て男児であったためカルシウムイオノファ処理が性の決定に影響するのか今後注意深く追跡したい。（何らかの原因により XX 胚の発育が停止することも考えられるが定かではない。）また、出生時に発見される先天異常は生後 1 年間に発見される先天異常の約半数にしか過ぎないともいわれ、長期的な発育調査を含め出生児の予後調査を実施していく予定である。